

BCAOアワード2022審査結果

BCAO は、事業継続計画（BCP）に関する表彰を毎年実施しています。今回は17回目となります。

特定非営利活動法人 事業継続推進機構(BCAO)は、日本の事業継続(BC)の普及に資するため、その普及、実践等に貢献した個人・団体を表彰する「BCAO アワード 2022」の受賞者を、この度、下記のとおり決定いたしました。本アワードは 2006 年度に創設され、今回が 17 回目の表彰となります。

なお、授賞式につきましては、現在もコロナ禍が収束していない状況に鑑み、オンラインを念頭に検討中です。受賞者の方の内容発表につきましては、当機構が実施するセミナーや月例会において、多くの方に参考にしていただけるよう内容についてご発表いただく予定です。

各賞受賞者一覧

【事業継続部門】

賞	受賞者	タイトル
特別賞、普及貢献賞	北陸国際物流戦略チーム 広域バックアップ専門部会	首都直下地震および南海トラフ巨大地震を想定した日本海側港湾への外貿コンテナの代替輸送訓練
特別賞、人づくり・訓練賞	株式会社丸和運輸機関	AZ-COM 丸和グループ事業戦略と結びついた BCM の進捗
優秀実践賞、人づくり・訓練賞	ナブテスコ株式会社 パワーコントロールカンパニー	サプライヤーの海外工場被災に伴う事業継続対応＜実践事例＞ ～ 生産を支える調達BCPの取り組み ～
特別賞	TAUE会（有限会社江見総合保険、有限会社植木保険サービス、株式会社オフィスタカ）	～保険代理店間のBCP提携協力～ 「競合社間の利欲を無くし顧客保護を最優先する」
普及貢献賞	株式会社百五総合研究所	三重県内中小企業への防災・BCP 普及啓発に向けた取り組み
優秀実践賞	富士産業株式会社	医療・福祉は止められない！食事の提供も止められない！一食の継続に向けたサプライチェーンのBC強化への取り組み
優秀実践賞	有限会社丸重屋	つぶれない会社創り～災害対策だけのBCPじゃ、もったいない～
優秀研究賞	野田 健太郎	観光産業の現状と課題分析を踏まえた処方箋の提示
優秀研究賞	松下 哲明	東日本大震災が企業業績に及ぼした長期的な影響

(同一賞につきましては、組織名の五十音順にて記載しています)

【防災部門】

賞	受賞者	タイトル
企業防災賞	株式会社フクダ・アンド・パートナーズ	防災リバーシブルビル「仙台長町未来共創センター」
企業防災賞	株式会社リクルート	環境変化に即時対応する高速 PDCA を軸とした企業防災の取り組み

【災害対応部門】

賞	受賞者	タイトル
東日本大震災・新型コロナウイルス「災害対応特別賞」	農事組合法人 いわき菌床椎茸組合	東日本大震災、新型コロナを乗り越えて「日本一の椎茸工場を目指す」
令和元年東日本台風「災害対応特別賞」	渡辺建設株式会社	令和元年台風 19 号への BCP 対応出動

選考に当たり重視させていただいた点

【事業継続部門】

■ 特別賞、普及貢献賞

受賞者	選考に当たり重視させていただいた点
北陸国際物流戦略チーム 広域バックアップ 専門部会	同専門部会は、2012年から10年間にわたり、太平洋側に立地する企業の災害時の海上輸送の代替戦略として、日本海側の港湾を使用する代替輸送の訓練を続けてきた。新型コロナ蔓延時にもオンラインの訓練を継続するなど、長年の訓練継続の努力は高く評価される。また、2022年度は、首都圏直下型地震と南海トラフ巨大地震を想定した図上訓練を実施して検証を行った結果、災害時に円滑な代替輸送を実現するには、BCPに代替輸送の具体的な手順を明示的に記載することが有効であること等が認識された。このように、代替輸送の具体的な方法や手順を関係者が集って議論し、改善していく機会を設けてきたことは、海上輸送の代替手段を各社のBCPに普及させる面での貢献も大きい。

■ 特別賞、人づくり・訓練賞

受賞者	選考に当たり重視させていただいた点
株式会社丸和運輸機関	陸運及び3PL事業を手がける同社は、関連団体のAZ-COMネットの参加企業に呼び掛けて「連携事業継続力強化計画」策定に取り組み、全国6エリアで中小運送企業会員61社が認定を受けるなど、災害時物流の強化に貢献している。また、企業の事業継続を被災時の物流ニーズを緊急に担うことで支援する「BCP物流事業」は、2022年に新型コロナのクラスター発生、地震、台風等の自然災害等の8件の支援を実施し、利益も得ており、平常時の契約拡大の手段ともなっていることは注目される。さらに、人財育成の一環として、若手社員(20代7名)を主体としたBCPの策定や改善、本社対策本部訓練の企画・運営を実施したことは、BCの担い手育成の面で評価できる。

■ 優秀実践賞、人づくり・訓練賞

受賞者	選考に当たり重視させていただいた点
ナブテスコ株式会社 パワーコントロールカンパニー	走行モーターおよびバルブ製品を供給する同カンパニーは、国内の2工場のそれぞれでレジリエンス認証を獲得するなど、事業継続力の強化に努めている。また、海外にも生産拠点を有し、国内外での代替生産体制を構築している。調達面では主要サプライヤーのBCP支援を重点課題とし、また、「BCPパイヤー」養成研修を通じてサプライヤーの対応力高度化の支援人材を育成する取り組みを行っている。2022年10～11月に発生した主要サプライヤーの海外工場被災に伴う調達難に直面した際には、被災企業の早期復旧や代替生産を支援し、生産品目の優先順位に基づいた効果的な対応を実現した。加えて、前述の事業継続対応で生じた課題を踏まえ、重要品目の複線化などの生産体制の見直しを具体的に計画している点も評価できる。

■ 特別賞

受賞者	選考にあたり重視させていただいた点
TAUE会（有限会社江見総合保険、有限会社植木保険サービス、株式会社オフィスタカ）	岡山市、倉敷市、岡山県北部をそれぞれ拠点とする保険代理店 3 社が構成する同会は、一社の事務所や従業員が被災するなどの緊急事態に陥り業務継続困難になった場合、その社が通常業務ができようになるまで、他社が建物の一部・人・物・資金を提供し業務を継続できるよう協力する、という BCP 提携を令和 2 年に締結した。これは自社が被災した場合でも保険加入者への支払いを滞らせないことを重視した取り組みであり、同業種での BCP 連携の好事例として評価される。また、それぞれの顧客にこの BCP 連携について周知して顧客情報の共有に対して理解を得て進めており、さらに、3 社で月例の BCP や事故対応の勉強会を重ね、3 社合同での訓練を年に数回重ねている点も評価できる。

■ 普及貢献賞

タイトル	選考にあたり重視させていただいた点
株式会社百五総合研究所	百五銀行グループのシンクタンクである同社は、2011 年以降、三重県内の中小企業に対して BCP の啓発・普及活動や BCP 策定支援を行っており、その内容は商工三団体と協力したセミナーや BCP 策定指導、自社コンサルタントの派遣による事業継続力強化計画の策定支援、新聞、テレビ、機関紙等での情報発信など、多岐にわたる。さらに、商工会議所・商工会の経営指導員等が BCP 策定支援を自立的に行えるよう勉強会を開催している。これらの活動を長年にわたり継続することで地域の中小企業の BC の取り組みに大きな影響を与えており、三重県が事業継続力強化計画の県別策定率全国 1 位（2022 年 3 月末）であることはこれらが貢献した結果ともみられ、その活動は高く評価される。

■ 優秀実践賞

受賞者	選考にあたり重視させていただいた点
富士産業株式会社	医療給食、介護・福祉・産業給食等の受託業務の企画・開発サービスを担う同社は、顧客への食事提供を継続する BCP を策定している。自社の BCP を有効性確保には食材の納入がボトルネックになる可能性があるため、納入業者に対して BCP の策定を要請するとともに、納入業者に事業継続の取り組みに関するアンケートを実施し（有効回答数 349 社）、その実態と課題を把握・分析し、課題解決に向けた情報を提供している。また、納入業者に向けて経営管理セミナーを実施し、「医療・福祉事業者への食材の納入を重要業務としてとらえ、代替手段を積極的に採用すること」の意識づけの機会とした。これらの取り組みは、社会的供給責任を担う企業の BC の取組として高く評価される。
有限会社丸重屋	首都高速や国・自治体が管理するインフラ構造物の点検調査を手がける同社は、災害時においても点検調査を実施できるよう、BCP の策定および訓練をトップダウンで実施してきたが、全社員のボトムアップも図るためプレスト会議による課題抽出を行い、元請化とドローン点検等の推進を重点課題として対策を実施してきた。元請化により顧客情報を直接収集し、有事の際に顧客の要望に迅速に応えることが可能となり、また、ドローン点検等の推進により、立ち入りが難しい場合でも効率的に点検が可能となり、緊急点検作業時間の短縮や安全性の向上およびコスト削減にも寄与している。これらの課題抽出から対策実施の取り組みは、危機対応力及び事業継続力の強化への取り組みとして評価できる。

■ 優秀研究賞

受賞者	選考にあたり重視させていただいた点
野田 健太郎	編著書である『観光産業のグレート・リセット』は、新型コロナの影響を受けて大きな打撃を受けた観光産業の復興・復活について現状と課題を分析し、今後の業界の復興と成長のために必要な視点を示したものである。なかでも同氏が執筆した第7章は、観光業界におけるBCPの重要性について課題を提起し、コロナ禍における観光産業の改善すべき点をSDGsの取り組みや既存事業に加えた新たな展開の必要性を示唆しており、同じく第8章は、イベントリスクの認識とビジネスデザインのために事業の捉え方の見直しについて提言している。これらは、今後、観光産業の復興とサステナビリティの確保において認識すべき視点を提供しており、BCの面でも価値の高い研究として評価される。
松下 哲明	同氏が執筆した論文は、上場企業2,155社が3か月毎に公表している財務データを分析し、東日本大震災から10年間、震災とBCPが企業業績に及ぼした影響を分析している。その結果、震災4年後から被害を受けた企業の売上高は被害なしの企業より低下し始め、10年を経過しても被害なしの企業を下回り続け、これは財務状況が悪化し、成長分野への投資が減少した可能性があるとして指摘している。また、BCPの有無を用いて売上げの推移を分析し、BCPありの企業は長期にわたりBCPなしの企業の売上げを上回る傾向がみられたが、この二つのグループに統計的な優位さは認められなかったとしている。このようなデータを用いたBCPに関する分析は例が無く、優れた研究として評価される。

(同一賞につきましては、組織名の五十音順にて記載しています)

【防災部門】

■ 企業防災賞

タイトル	選考にあたり重視させていただいた点
株式会社フクダ・アンド・パートナーズ	東京に本社を置き、物流等施設作りや管理を手がける同社は、東日本大震災での経験を踏まえ、仙台市において地域の防災に貢献できるテナントオフィスビル『仙台長町未来共創センター』を、大学との共同研究により企画・建設し、その活用について仙台市を含む産学官の協定を結んでいる。平常時には防災関連情報を発信し、同社とテナントと地域が防災の「共創」を実践する施設としての機能を持ち、非常時には、自社の二次代替拠点の役割を担うほか、備蓄品の無償提供や3重の電力設備を備えた帰宅困難者の受入施設として地域密着の「共生」防災施設としての機能を持っている。このような地域の多面的な防災機能の向上に資するプロジェクトは、企業の防災活動として高く評価できる。
株式会社リクルート	同社は、企業の基本理念を防災・減災の面においても実践するため、従業員の安心安全の確保と企業防災の取り組みを活発に推進している。具体的には、①どんな状況でも機能する本社災害対策本部の構築、②リモートワーク中心でも機能する自衛消防隊の編成、③どこで災害が起こっても48時間以内に発送できる備蓄品の準備を、達成すべき目標の柱として設定している。この実現のために、自社の防災に関する環境の変化を課題としてとらえ、それに対する対応を質・量ともに高いレベルでの活動を続けている点は高く評価できる。また、この実効性を高める訓練の頻度は一般的なレベルを超えており、会社全体・全社員の理解と協力のもとに推進されていることを示している。

【災害対応部門】

■ 東日本大震災・新型コロナ「災害対応特別賞」

タイトル	選考にあたり重視させていただいた点
農事組合法人 いわき 菌床椎茸組合	同組合は、東日本大震災後の原子力発電所事故の影響による福島県産農産物の風評被害や需要減少に対して、積極的な情報発信、新規販路開拓、複数企業と提携した6次産業化による新製品開発、雇用維持などにより事業継続を果たし、現在も事業を拡大し続けている。また、平時から、多能工化や分散取引の拡大、複数地域とのお互い様BCネットワークを構築など、事業継続視点での取組を行っている。さらに、この平時から行っている対策により、コロナ禍において生じた飲食店等の需要急減、巣ごもり需要による需要変動、雇用者の不足などの事業継続の課題を克服することができた。これら取組は、災害、感染症などの被害・影響を乗り越えた事業継続の事例として高く評価できる。

■ 令和元年東日本台風「災害対応特別賞」

タイトル	選考にあたり重視させていただいた点
渡辺建設株式会社	群馬県吾妻郡嬭恋村において建設業を営む同社は、2010年より災害時の出動の訓練を継続し、地元警察署も訓練に参加するなど地域防災において官民をつなぐ役割を果たしている。令和元年東日本台風では、同社が保有する備蓄資機材を活用し、官民の協力、同業他社との役割分担のもと、迅速な応急復旧作業を実現させた。また、同社は地域で最も早くドローンを導入し、操縦やデータ伝送の訓練を継続的に実施し、災害対応に備えてきた。その成果として、台風通過後48時間以内にドローンを用いて嬭恋村ほぼ全域の被害状況を把握し、国道144号崩落や橋の流出映像を国土交通省や自治体に提供することで、早期復旧に貢献した。この取組は、風水害への対応事例として高く評価できる。

BCAO アワード選考委員会では、2022年11月15日（火）～2023年2月15日（水）の募集期間に応募があったものについて、次の観点から厳正なる審査を行いました。

◆選考方法、基準等

○事業継続部門：趣旨に記載した表彰対象の内容について、

- ・ 優れた取組みで特に見るべき特徴のあるものを「特別賞」
- ・ 優秀なBCPの策定・BCMの実施で範となるものを「優秀実践賞」
- ・ 優れた取組みでBCの普及貢献の役割が大きいものを「普及貢献賞」
- ・ BCのための人づくり、訓練の手法の紹介や実践事例で優れたものを「人づくり・訓練賞」
- ・ BCの普及に顕著に貢献した研究、論文などを「優秀研究賞」

とします。BCに関わる成果を広く知らしめることを重視するため、公表履歴の多いものをより評価しますが、実践の場合にはこの限りではありません。

○防災部門：

- ・ 企業や企業を中心とする地域の防災への取組で有益なものを「企業防災賞」

○災害対応部門：

- ・ 災害等への優れた対応事例を「災害対応特別賞」